

平成30年度 学校評価における中間評価の報告
進学指導部
森下 文弥

設定目標(抜粋)

1、選抜クラスについて

- ・1年生を2クラス編成にする。
- ・学級担任、教科担任の指名について
- ・スタディーサポートについて

2、看護医療について

- ・看護医療ガイダンス等を実施し、適切な進路選択を促す。
- ・看護医療の学力(専門用語、計算力等)の向上
- ・看護体験の促進

3、放課後の特別講座について

- ・講座内容の充実
- ・検定や資格講座を中心に、講座の増設

4、清和大学併設校入試について

- ・入学者50名、特待生5名を目標に、勧誘する。
- ・公務員ガイダンス等を含め、清和大学との高大連携を進める。

5、清和大学短期大学部併設校入試について

- ・入学者70名、特待生5名以上を目指す。
- ・新校舎の完成をPRする。

点検・評価項目	自己評価	総括・意見等	特記事項
	優れている＝3 適切＝2 要改善＝1		
1、選抜クラスについて	3	選抜クラスの編成に関しては、2、3年生は従来通り1クラス。1年生に関しては、2クラス編成を実施。2クラスとも、放課後の特別講座の受講者も例年より多く、意欲が感じられ、2クラス競い合い、切磋琢磨する様子が伺える。定期試験の平均点も他クラスより高い。次年度以降は、2クラスを維持し、1組にはスポーツコースの生徒を入れないことなどを含み、ハウス長を交えて、随時検討中。スタディーサポートは予定通り実施。担任会議は実施できておらず、学期末に実施予定。	1年生の選抜クラスは、補習の受講者や、検定受験者も多く、意欲が感じられる。教科担当も意識を持ち、学力向上や進路に関する意識付けを意図して授業や教材、カリキュラム編成の工夫がみられる。クラス担任と生徒、進路指導部との面接の機会が多くとれるようにしていきたい。
2、看護医療について	3	看護医療系の進路希望者は80名を超え、進路希望分野の中でかなりの割合を示す。看護師の希望者は放課後の特別講座や個々に小論文の指導を受けるなど、意欲的な動きが見られる。看護医療模擬試験などを受ける生徒も例年より多く、進路決定に意欲が伺える。進学指導部員だけでは手が足りないのでは、学級担任を中心に、看護医療系の進路希望者は個々に指導できる体制作りが望まれる。	4月の看護医療ガイダンスの出席者が80名、看護医療小論文の特別講座参加者が20名、小論文対策講座が16名と、例年に比べて多い。一日看護体験は今年度8名とやや少なかったが、オープンキャンパスや学校見学会に赴く生徒が例年以上に多くみられたようであった。

3、放課後の特別講座について	3	講座受講者、延べ200人を超え（重複受講者含む）た。新しく世界遺産検定を新設し希望者も多い。漢字検定や英語検定も軒並み好調で、各級に合格者を多く出している。各講座も、毎回欠席者も少なく、意欲が感じられる。	3年生は、AO入試や推薦入試を希望するものが多く、小論文や看護医療の講座に人気が集中してしまう傾向が見られ、受験講座の人数が増えなかった。1年生は、多くの人数が講座に申し込んだが講座内で、生徒の実力に差が生まれ、同じ講座でも能力別、到達度別に開講できればよいと思う。
4、清和大学併設校入試について。	2	(8月31日現在) 清和大学 併設校希望者 29名 AO入試希望者 7名 清和大学・短期大学部 併設校希望者 48名	締め切りを各月の月末に設け、募集したところ、8月末の時点で左記の人数の希望者が出た。AO入試や、推薦入試の結果が出て、進路変更などの希望者が出てくると考えられるので、今後希望者の増加が見込まれる。 清和大学側との連絡を密にし進めていく必要があり、短大は新校舎を前面に出しPRしていく。